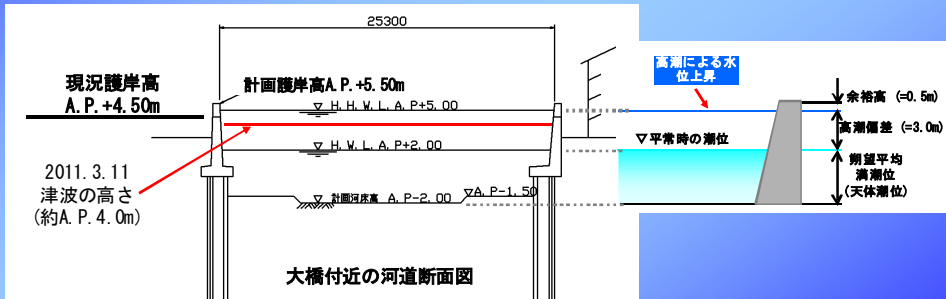


都川本川の現状

大和橋下流の河道断面

大和橋より下流の計画護岸高は、計画高潮位を基準として設定しています。
現在は、暫定のA.P. 4.5mで完成しています。

2011. 3. 11の東日本大震災による津波の高さは、現況護岸高以下であり、溢水等の被害はありませんでした。



○計画高潮位
天体潮位+偏差+波打上高
=A.P. 2.0m+3.0m+0.0m
=A.P. 5.0m

○計画高潮護岸高
計画高潮位+余裕高
=A.P. 5.0m+0.5m
=A.P. 5.5m

都川本川の現状

下流部の河道状況(その2)

立会橋より下流は、千葉市の中心市街地を流れているため、大幅な河道拡幅が困難な区間です。そのため、矢板による直立護岸や、積みブロック護岸の河道となっています。

水源橋下流は、概ね30年に1回の洪水に対応する能力を持っています。



亀岡橋より下流を臨む



水源橋より上流を臨む



都川本川の現状

下流部の河道状況(その3)

市街地の区間では、親水性等に配慮し、公園など一体となった整備を行っています。



都川本川の現状

中流部の河道状況

立会橋から支川都川合流点の間は、概ね改修が完了しています。
この区間は、土羽河岸で河川環境に配慮した河道整備を行っています。
水源橋から支川都川合流点間は、概ね10年に1回の洪水に対応する能力を持っています。

